

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和4年2月号



【海草振興局】 2/25 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】
～「匠の技 伝道師」による第3回研修会を開催～

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「匠の技 伝道師」による第3回研修会を開催～	
II 那賀振興局	2-3
1. 食育・交流活動 ～紀の川市環境保全型農業グループ～	
2. JA紀の里「めっけもん広場」が県食育推進表彰を受賞	
III 伊都振興局	4
1. 伊都管内におけるカメムシ越冬量調査の実施	
IV 有田振興局	5
1. 「おいしとまと」の土壌診断結果説明会	
V 日高振興局	6
1. 高品質ミニトマトの安定生産に向けた取組	
VI 西牟婁振興局	7
1. ホオズキ栽培現地実証ほの地下茎調査および定植作業の実施	
VII 東牟婁振興局	8
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～みくまの産地協議会が第3回UIターン就農相談フェアに出展～	
VIII 農林大学校	9
1. 卒業論文発表会を開催	
2. 令和3年度農学部卒業式	
VIII 就農支援センター	10-11
1. 令和3年度技術修得研修（第2班）修了	
2. 令和3年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了	
3. 第3回UIターン就農相談フェア開催（オンライン）	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】

～「匠の技 伝道師」による第3回研修会を開催～

2月25日に海南市下津町内にあるウンシュウミカン園で樹勢維持、隔年結果対策技術習得のため、橋詰孝氏「匠の技 伝道師」による第3回研修会を開催した。当日は新規就農者やわかやま農業 MBA 塾修了生、農業士等 21名の参加があった。

橋詰氏から、現在のウンシュウミカン生育概況と今後の管理作業の説明があった。続いて、成木と若木の「せん定」の実演があり、参加者からは、「せん定による適切な樹形維持の方法が大いに参考となる」との声があった。

また、研修の最後に当課の川村普及指導員から、導入を推進している新品種「植美」の紹介と貯蔵試験中の果実の試食を行ったところ、味などについて高い評価が得られた。

橋詰氏による研修会は来年度も開催する予定である。当課では、今後も若手農業者等の栽培技術力向上をサポートしていく。



研修の様子

Ⅱ 那賀振興局

1. 食育・交流活動 ～紀の川市環境保全型農業グループ～

紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林元氏）では、2月3日に紀の川市立川原小学校（校長：上野美幸氏）に開設している学童農園において、全校児童48名のうち1,4,5,6年生を対象に食育・交流活動を実施した。

この活動は本グループが結成された平成18年以降、会員と学校、地域が一体となって実施している取組であり、当日は、1・4年生がジャガイモを、5・6年生がタマネギの定植を体験した。

体験を始める前に会員2名が講師役を務め、「ジャガイモ種芋は植える向きについて気をつけましょう」「マルチに穴をあける専用道具があります」といった植え方や道具の使い方について説明を行った後、子供たちは分散してジャガイモとタマネギの定植作業を行った。

参加した児童は、定植作業に一喜一憂し、「マルチの穴あけは意外と難しい」「どのくらいの深さで植えればいいんだろう」「収穫作業が楽しみ」といった声があちこちから上がっていた。

なお、3月には2・3年生がニンジンの定植を行い、6月頃には今回植えたジャガイモ、タマネギと併せて収穫作業を行う予定である。

農業水産振興課では、当グループの取組を今後も支援していく。



植え方の説明を聞く生徒達



ジャガイモ定植作業



マルチ穴あけ作業の様子



タマネギ定植作業

2. JA紀の里「めっけもん広場」が県食育推進表彰を受賞

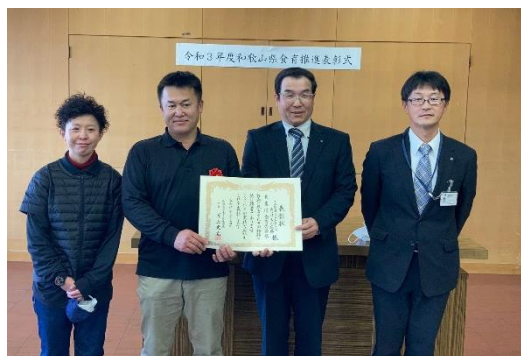
2月28日、食育の推進に特に顕著な功績を上げている個人・団体を表彰する食育推進表彰が那賀振興局で行われた。管内のJA紀の里ファーマーズマーケット「めっけもん広場」（店長：山田秀樹氏）が「県農林水産業の発展振興に資する食育の推進」として評価され、和歌山県食育推進会議（会長：岸上光克氏 和歌山大学経済学部教授）から表彰を受けた。

平成12年のオープン以来、めっけもん広場が起点となり、生産者と連携しながら消費者の農業への理解促進を図るとともに、農産物の旬や歴史の伝承など、地域特性の理解向上に貢献してきた。

依然として続くコロナ禍の影響により、これまで取り組んできた試食販売や農業体験など消費者と直接顔を合わせる活動が制約を受ける中、リモート交流ソフトを活用して他県直売所から地場農産物の魅力を紹介してもらったイベントや、JA紀の里管内で生産されている数多くの中晩柑を、消費者により身近に知ってもらうための『柑橘食べ比べセット』を考案し販売するなど、新たな活動に積極的に取り組んでいる。

今回の表彰を受け、山田店長からは「これまで食育活動に加え、地域の学校や老人ホームなどへの食材提供などにも積極的に取り組んできた。本日いただいた食育推進表彰に恥じないよう、今後も頑張っていきたい」と抱負が語られた。

農業水産振興課では、今後も関係機関と連携し、地域における食育の推進を図っていく。



表彰式の様子



リモートを活用したイベント



柑橘食べ比べセット

Ⅲ 伊都振興局

1. 伊都管内におけるカメムシ越冬量調査の実施

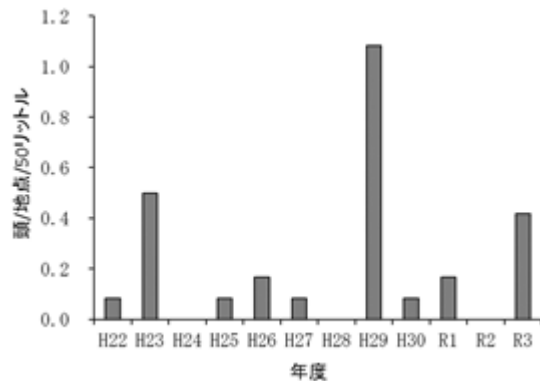
2月3日～9日、伊都地方農業振興協議会果樹病虫害対策会議（JA紀北かわかみ、市町、かき・もも研究所、伊都振興局で構成）関係職員が、橋本市4地点、橋本市高野口町2地点、九度山町2地点およびかつらぎ町4地点の日の当たる斜面等で約500の広葉樹の落ち葉を採集し、越冬しているカメムシの種類や頭数を調査した。その結果、チャバネアオカメムシが3地点で合計5頭確認され、1地点あたり0.4頭となり過去の越冬量と比較して多い傾向であった（グラフ参照）。また、クサギカメムシが1地点で合計2頭（昨年0頭）確認された（データ省略）。これらのことから令和4年度の発生は多くなると考えられる。

また、当協議会では、5月から10月の間生産者の協力のもとフェロモントラップ調査や予察灯調査でカキの被害果調査を実施している。

結果をもとに関係機関と協力し、越冬量が多かったことに関するチラシを配布するとともに、果樹園への飛来の早期発見と速やかな薬剤散布の推進など防除啓発に努める。



越冬量調査風景



チャバネアオカメムシ越冬量の年次変動

IV 有田振興局

1. 「おいしとまと」の土壌診断結果説明会

有田川町生石地区の生石出荷組合は、夏の冷涼な気候を生かし、夏秋期に収穫するトマトを栽培し、「おいしとまと」として岸和田市内市場へ出荷している。

組合員数は12名、栽培面積は3.2haで、「りんか409」などの大玉系品種を雨よけハウスや簡易な雨よけ施設（アンブレラ）で栽培している。7月下旬から収穫が始まり、11月下旬まで出荷される。

来期の施肥設計に役立ててもらうことを目的に12月に土壌を採取し、土壌診断を実施した。園地土壌はリン酸およびカルシウムが過剰になっている傾向であった。

2月24日に栽培講習会を開催し、診断結果を報告した。説明会では、どんな成分の肥料をどのくらい施用したらいいのかなどの質問の他、トマト栽培全般についても質疑応答を行った。



雨よけハウス



簡易雨よけ施設(アンブレラ)

1. 高品質ミニトマトの安定生産に向けた取組

日高地方で栽培されているミニトマトは、食味等の品質にこだわり、高糖度と完熟収穫を重視していることが特徴といえる。しかし、栽培管理は各生産者の経験と勘によるところが大きく、収量や品質においてバラツキが大きい。また、冬期に裂果が多発し、出荷ロスが大きいことも課題となっている。

そこで、農業水産振興課では、暖地園芸センター及びJA紀州と連携し、栽培管理の現状把握と環境データの見える化を図るため、印南町内のミニトマト栽培施設6ヵ所において、生育状況と収量、裂果の発生、果実品質について調査を行うとともに、施設内環境データ（気温、湿度、CO₂濃度）の収集を行っている。

これまでの調査の結果や栽培環境データを振り返ると、園主による栽培管理の違いや施設内環境の差異が明らかになった。また、園主の方々も、自らの施設内の状況を数値やグラフで見ることで、これまでの栽培管理の確認や改善の参考となっており、環境モニタリングへの関心が高まってきている。

今後も、引き続き現地の協力を得ながら、各種調査とデータ収集を行い、高品質ミニトマトの安定生産（果実品質と反収の確保、裂果の抑制）を目指した「施設内環境管理モデル」の作成に取り組んでいく。



データロガーによる
栽培環境データ計測



ミニトマト園地での生育調査

VI 西牟婁振興局

1. ホオズキ栽培現地実証ほの地下茎調査および定植作業の実施

西牟婁管内ではお盆にあわせて、直売所出荷向けにホオズキが栽培されている。ホオズキの栽培は、前作のほ場から掘り上げた地下茎を利用して作付けするのが一般的であるが、この方法では土壤病害やウイルス等を圃場に持ち込む危険性が高い。現地ほ場においても、株枯れや斑点細菌病などの病害の発生が多く、生産者からそれらの対策を要望されている。

農業水産振興課では、他産地で実施されている実生苗から無病の地下茎を養成する方法を導入し、昨年秋から田辺市、上富田町の5戸の生産者がポリポットで実生苗の地下茎を養成し、2月上旬からこの地下茎の植え付けを行っている。

2月9日の調査では、7.5cmポリポットの实生苗1株から2~3本の地下茎が得られ、1本の地下茎の長さは5~9cm、地下茎1本当たりの芽の数は3~6個であった。従来の植え付けは、20cm程度に調製した地下茎を植え溝に連ねて置床するが、実生苗の地下茎は長さが短いものの、充実した芽が2芽以上あるため、10~15cm間隔で植え付けた。また、芽出しや間引き作業の省力化を図るため、地下茎を縦向きに植え付ける方法も実施した。

当課では、今後とも生産者やJA紀南営農指導員と連携しながら、生育、切り花品質、病害の発生程度等を従来の栽培方法と比較し、ホオズキの安定生産技術の確立に向け、栽培管理方法の現地実証を継続していく。



地下茎の調査(2月9日)



実生苗の地下茎



定植状況(上富田町、2月18日)



定植状況(田辺市、2月28日)

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】

～みくまの産地協議会が第3回UIターン就農相談フェアに出展～

2月27日、第3回UIターン就農相談フェアがオンライン開催され、出展したみくまの産地協議会（会長：漆畑繁生氏）ブースに事前申込みがあった1組2名（和歌山市在住）が訪れた。

相談者からは、東牟婁地域の農業の特徴や農地の確保方法、新規参入にかかる初期費用、当協議会での支援・助成やJA・県のサポート体制等について質問があった。農業水産振興課橋本普及指導員から「イチゴ新規就農支援プログラム」、「みくまの産地提案書」を基に、みくまの産地協議会での推進品目・受入体制や、県等の支援・助成、東牟婁地域での新規就農の事例を紹介した。

さらに、JAみくまの営農経済部森課長は、農業の基礎技術や管内農作物の栽培技術習得支援としてJAトレーニングファームの研修内容を説明した。

なお、昨年度の第1回UIターン就農相談フェアの相談者のうち1名（大阪市からのIターン者）は、産地面談会を経て、昨年6月から当協議会の研修先のJAトレーニングファームと地元のイチゴ栽培農家にて研修中で今年6月に就農予定である。

今後も当課は、みくまの産地協議会のオブザーバーとして、JAトレーニングファームを拠点とした新規就農希望者の受け入れ等を支援していく。



みくまの産地協議会ブース



みくまの産地協議会での就農相談



イチゴ新規就農支援プログラム



みくまの産地提案書

Ⅷ 農林大学校

1. 卒業論文発表会を開催

2月15日に卒業論文発表会を開催し、2年生の園芸学科15名とアグリビジネス学科3名の合計18名が2年間の調査研究の成果を発表した。

学生らが発表した内容は、「寒締めホウレンソウの在圃期間が生育期間や品質に及ぼす影響」や、「不知火の直花、二番花、三番花による果実品質の違い」、「農産物を使用した加工品の開発と販売」など多岐にわたった。発表後は鈴木審査員長(暖地園芸センター所長)などから質問をいただき、学生は時折言葉に詰まりながらも懸命に回答していた。

卒業後の進路につながるテーマが多く、今後、卒業論文への取組の経験を活かして社会で活躍することを願っている。



スイートコーンの多収穫栽培技術の検討について発表する学生

2. 令和3年度農学部卒業式

2月25日に出席者を制限するなど新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じたうえで卒業式を挙行し、前田校長から2年生18名に卒業証書が授与された。併せて成績優秀者等に対する表彰も行われ、県知事賞をはじめとする賞が授与された。

前田校長は式辞で、学生の2年間の成長を称えるとともに、「社会での困難や障害にも一所懸命挑戦を続けてほしい。」とエールを送った。答辞では、園芸学科の松野慎氏が「私たちは夢と目標に向かって日々努力していくことを約束します。」と、卒業生を代表して新たな門出にあたっての決意を述べた。

卒業生の進路は、就農が4名(うち雇用就農1名)、農業協同組合や種苗会社、食品加工会社などに就職が11名、公務員が1名、海外・県内での農業研修に参加が2名となっている。



卒業証書授与



答辞

IX 就農支援センター

1. 令和3年度技術修得研修（第2班）修了

2月4日、就農支援センターでは、昨年10月からスタートした技術修得研修第2班の営農計画発表会ならびに閉講式を行った。はじめに、営農計画発表会では、それぞれの将来目標（「自然によりそった持続可能な農業の実現」、「栽培技術とスマートな農業経営の確立」など）と、その抱負を語った。続いて、就農してから5か年の営農計画について、栽培作物、販売方法、所得目標などを説明し、研修生や就農支援センター職員と意見を交わした。今回、全体として作付けする主な作物には、果樹ではウメ、野菜ではイチゴ、ブロッコリー、ミニトマト、ネギなど、そして水稻があげられた。

閉講式では、就農支援センター中谷所長が激励の言葉の後を贈り、修了認定基準を満たした研修生5人全員に修了証書を手渡した後、25日間の研修プログラムが修了した。今回、技術修得の研修生5人のうち1人が就農予定である。



技術修得研修修了生へ
メッセージ



営農計画発表

2. 令和3年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了

2月10日、就農支援センターでは、社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）の営農計画発表会ならびに閉講式を行った。はじめに、閉講式では田辺産業技術専門学院の板倉学院長から、昨年5月から9ヶ月間の研修を修了した研修生6人に修了証書が授与され、お祝いの言葉が贈られた。

続いて営農計画発表会では、研修生各自が研修中に作成した営農の将来目標と、それを実現するための5か年の取組や抱負を語った。研修生からは、「小規模でもロスの少ない安心安全な作物づくり」、「効率的なイチゴ栽培と省力的なウメの複合経営」、「イチゴの生産技術の向上と県内の観光地としての強みを活かした販路拡大」等のテーマで発表があった。営農品目としては、果樹ではウメ、野菜ではイチゴ、ダイコン、ニンニク、キャベツ、ズッキーニなど、花きではヒマワリ、そして、水稻であった。

最後に就農支援センター中谷所長から、「研修生の皆様には、講義や実習で学んだ知識と技術を生かし、それぞれの将来の目標に向け、営農活動に励んでいただきたい」との言葉が贈られた。今回、社会人課程の研修生6人のうち4人が就農予定である。



社会人課程修了生への修了証書授与

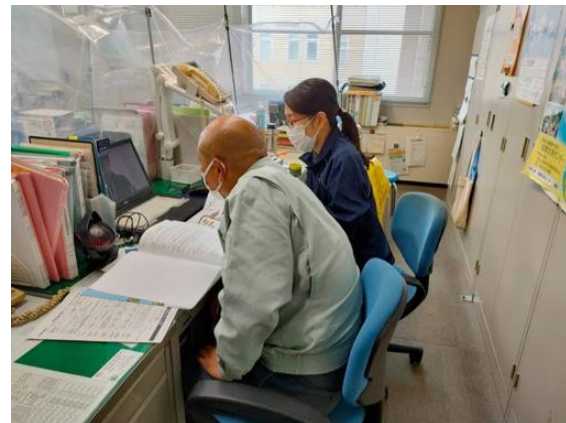


営農計画発表

3. 第3回UIターン就農相談フェア開催（オンライン）

2月27日、第3回UIターン就農相談フェアを開催した。今回、新型コロナウイルス蔓延防止等重点措置のため、県庁経営支援課（オンラインホスト）でオンライン開催となった。県農業相談（経営支援課、農林大学校、就農支援センター）、県林業就業相談（わかやま林業労働力確保支援センター）をはじめ、JAグループ、有田川町および有田川町農業後継者受入協議会、紀美野町、由良町、みくまの産地協議会、紀ノ川農業協同組合、和歌山県農業会議、日本政策金融公庫、わかやま定住サポートセンターの計11団体が出展した。なお、今回の相談者数は、9件13名（うち大阪府からは3件4名）であった。相談者から、「農林大学校、就農支援センターでの就農研修や各市町での農家研修」、「農業次世代人材投資事業などの給付金」、「県内各地への移住」などについて質問があり、以上の質問について、パンフレットなどの資料を画面共有しながら、丁寧に対応した。

オンラインホストおよび各出展団体の協力により、今後オンライン上でも充実した相談フェア開催の可能性が示唆された。来年度以降の就農へのステップ、県内への移住者の増加につながることを期待している。



県農業相談ブース
（オンラインによる就農相談）

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489